

本書「ナガサキから平和学する！」は、同じ出版社から出版された『平和学の現在』（一九九九年）、『オキナワを平和学する！』（二〇〇五年）をうけつぎ、被爆地長崎から平和学の多岐にわたる成果を二二世紀初頭の学生と教師、市民と国民にひろく提供しようとするものである。

同じ職場（長崎大学）に所属する編者らは幾度となく会合をかさねて、テーマと章立てを工夫し組み立てた。執筆者には実践と理論の両面において長崎から平和を発信しつづけてきた人びとを中心に据え、またテーマにおいて国内から最適の専門家を迎えた。さらに、「高校生一万人署名活動」、「高校生平和大使」などをつうじて平和のために具体的な行動をしてきた若い世代、現役の高校生、大学生をも執筆陣にくわえ、「人間の顔の見える」叙述と新鮮で明快な論稿をそろえることによって、永続的価値のある書籍にすることを目指した。

内容的にいえば本書は、原爆体験と長崎の被爆者については被爆者じしんが核時代の苛酷な現実をつぶさに語り、原爆投下と原爆被害、被爆者問題について、また「平和と環境問題」にかんしては、戦後六十年余をへた最新の科学的知見を提供する。

長崎の歴史と文化・社会については、これまでにない幅ひろいパースペクティヴ（見晴らし）をもって、「被爆地長崎の問題性」、「長崎の原爆文学」、「長崎の被差別部落」、「日本の加害責任」、「被爆国日本の加害・被害の二重構造」（その追究過程）など問題意識の濃厚な主題をあつかい、そ

れによって将来とも持続的に読みつがれる質の高いテキストをめざした。

本書はまた、戦争と平和、核時代と核時代からの脱却といった現代の枢要の問題について、たんに知識を提供するにとどまらず、同じ関心と憂慮を共有する市民にたいして、とりわけ若い世代にたいして、核兵器廃絶、戦争防止のために主体的に行動し実践する意思をいっそう鞏固にし、その具体的方策をゆたかに示唆し提供することをめざして、「平和学の技法」、「憲法九条と長崎」、「被爆体験の継承と若い世代の平和活動」、「長崎の平和教育」、「東北アジアにおける平和の追求」、「平和責任と多文化共生のために」などの論稿を用意した。さらに本書の「資料編」には、長崎市長の歴史的な文書を収録した。(昭和)天皇の戦争責任に言及して右翼から銃撃された本島等(元)市長の、もう一つの問題提起「広島よ、おごるなかれ」である。

さいごに、本書の巻末には、読者を長崎における「エクスポージャ」(exposi<sup>e</sup> 現地踏査)にいざなうために、新機軸として「エクスポージャ地図」を六枚付した。それぞれ、道案内・同伴者ともなりうるように創意工夫をこらしてあるので、本書をたずさえて長崎での「エクスポージャ」に出向いてほしい。そうして、「長崎」がたんに日本列島の最西端に位置するローカルな美しい港町であるにとどまらず、近世においてはきりしたん迫害に耐えて信仰の火をまもりぬき、現代においては原子爆弾の破壊に抗して平和の灯をかざしつつける、世界歴史の最先端に位置する真に国際的な都市「ナガサキ」であることを確認してほしい、と願っている。

二〇〇八年五月一五日 長崎にて

編者のひとり 高橋 眞司